

中学校日記

学校生活の1コマを学生の手作り(写真・文)でお届けします。

kiyama_chuugakkou

～新入生を迎えて～

新しい木山中の第一歩



きやまくん

4月9日、89人の新入生が木山中学校に入学しました。1年生は先輩として2年生へ、2年生は最高学年の3年生へと進級しました。私は生徒代表として歓迎の言葉を読み、木山中を引っ張っていかうという意識が高まったと同時に、自分が入学してきたときの懐かしさを感じました。これからの体育大会やさまざまなイベントに向けて、生徒会スローガンである「満開～主体性と笑顔が咲き誇り一人一人が輝く学校～」を新木山中の生徒全員で達成できるよう、あいさつ運動や笑顔を大切にしながら、日々全力で頑張ります。



私がお伝えします

木山中 生徒会副会長
吉本のかさん(3年生)

- ♡ Q
- # 新入生歓迎会
- # 私も吹奏楽部として部員募集
- # どの部活も魅力的です!

町長のちょっと一言 「熊本地震から9年 スポーツで心の復興」



試合前のあいさつで選手やサポーターを激励する西村町長

熊本地震から9年を迎えた4月14日、震災記念公園で献花を行いました。夕方からは「熊本地震4.14のつどい」に参加し、竹灯籠への点火と前震発生時刻に黙とうをささげ、地震の教訓を伝え続けることが私の使命であり、最大の恩返しであると決意を新たにしました。

4月には地域共生センターカタルがオープンするなど、ハード面の復興は進んでいると実感しています。一方、心の復興はまだ道半ばと感じています。そのような中、4月20日のロアソン熊本対ベガルタ仙台の試合会場に益城ブースを設置し、試合前、益城中吹奏楽部の演奏の後、お礼のあいさつをさせていただきました。私自身、選手の懸命な姿やサポーターの熱い応援から大きなパワーをいただき、改めてスポーツの持つ力が心の復興につながることを確信しました。スポーツなどで、地域づくりを進めることが災害に強いまちづくりにつながります。今後も、スポーツ・文化活動や健康づくり事業、地元のお祭りなどを積極的に支援してまいります。

乳幼児健診 町保健福祉センターはびねす ☎ 234-6123

5月

9日 ⑤ 3歳児健診
対象者：R3.9.27～R3.10.13 生

13日 ⑥ 4か月児健診
対象者：R6.12.26～R7.1.25 生

20日 ⑦ 7か月児健診
対象者：R6.9.11～R6.9.30 生

27日 ⑧ 1歳6か月児健診
対象者：R5.10.12～R5.10.31 生

28日 ⑨ 1歳6か月児健診
対象者：R5.11.1～R5.11.20 生

28日 ⑩ 3歳児健診
対象者：R3.10.14～R3.10.29 生

対象者には、個別に通知します。
時間は、通知をご覧ください。

6月

3日 ⑪ 3歳児健診
対象者：R3.10.30～R3.11.22 生

対象者には、個別に通知します。

※対象者は予定です。状況により変更になる場合があります。

ふるさと納税

全国からたくさんの「ふるさと納税」を頂き、心より感謝申し上げます。

令和6年度
54,019件 10億5,106万円

令和7年3月末現在

善意の灯 社会福祉協議会 ☎ 214-5566

香典返しに替えて次の方々から寄付をいただきました。(敬称略)

お名前	(行政区)	故人
村上 守也	(広崎4町内)	チカ子
永田 俊輝	(上 陳)	敦子
戸田 健一	(上 砥 川)	桂子
大賀 周一	(東 無 田)	ルイ子
秋永 望見	(小 池 秋 永)	忠夫
知名石 篤子	(畑 中)	坂田浩章
甲斐原 スズミ	(古 閑)	義之
岡本 博之	(小 池 秋 永)	フジ子
川上 さつき	(惣 領 1 町 内)	ミチ子
増村 光子	(田 原)	宏一
村上 文子	(惣 領 4 町 内)	利信

編集後記

◆表紙のお花見や特集のお宮参りなど、親子写真を撮る機会が多かった4月。大切な家族の時間に、撮影をさせてくれた皆さんに感謝です。平日に休みが重なった両親が秋津川沿いでお花見をしていたので、私も昼休みに参加して家族の時間を過ごしました。

◆南極地域観測隊員・松本さんへの取材では、建築士を目指すきっかけとなった大工の父や、南極で勇気をくれた負けず嫌いな未っ子のエピソードなど、泣ける話をたくさん伺いました。紙面の都合上泣く泣くカット。夢の続きをまた取材したいです。



健康に暮らす。

毎日を笑顔で過ごすために。健康や介護予防に役立つ情報を、専門家や健康のために活動をしている人にお話を伺いながら、毎月お届けします。

「もう年だけん、健康になるのは無理たい」各地を巡ってさまざまな人たちからお話を伺う中、このような「諦め」の言葉をよく耳にします。

介護予防には、適切な運動や食事、社会参加など、多岐にわたる要素が必要です。しかし、最も重要なのは「意識の変化」であると考えています。

「年だから」、「もう取り返しがつかないから」と諦めの気持ちを抱いたり、漫然と日々を過ごしたりすることで、健康は確実にあなたから遠ざかっていきます。

このコーナーでは、皆さんの「意識の変化」のきっかけとなるよう、健康や介護予防に関するさまざまな情報を分かりやすくお伝えしていきます。

いつの間にか健康になることを諦めていませんか？



九州厚生局
地域包括ケア
アドバイザー
やまうちつよし
山内強さん

PickUP!

佐土原英久さん(68)



大事故により頸椎を損傷し、体の一部がまひする後遺症を負った佐土原さん。しかし諦めることなく「元気あっぷ教室」などでの運動を継続。懸命なリハビリにより身体機能を大きく改善させました。

現在では、前職で培った経験を生かし、シルバー人材センター会員へのせんだの指導などの活動を開始しています。